令和5年度 授業改善推進プラン

担当教科 (英語) 学年 (1学年)

学力調査・アンケート等の課題分析

- ・「授業に積極的に取り組んでいる」「わかった・できたと感じる機会があり、分かりやすい」ともに 91%が肯定的に回答している。
- ・一方で、「授業で学ぶ楽しさを感じる」が82%となっている。

授業等の課題分析

- ・授業内容は理解できるが楽しくはないと感じる生徒がいると考えられる。
- ・学ぶ楽しさをより感じられる授業にすることで、より積極的に授業に取り組み、「わかった」「できた」と感じることも増えると考えられる。



目指す授業

「わかった」「できた」「楽しかった」と感じられる授業



授業改善のための具体的な方策

- ・クラスルームイングリッシュの使用頻度を増やし、教師も生徒も英語をたくさん使い、「英語で○○する」場面を増やす。
- ・振り返り活動で「英語で○○することができた」という具体的な達成項目を確認し、学ぶ楽しさを感じる機会を増やす。

令和5年度 授業改善推進プラン

担当教科 (英語) 学年 (2学年)

学力調査・アンケート等の課題分析

- ・「授業に積極的に取り組んでいる」への肯定的な回答が97%である。
- ・一方で、「他者の考えや思いを取り入れ、自分の考えを広げ深めることができている」「授業のはじめに、目標が示されている」「わかった・できたと感じる機会があり、分かりやすい」「授業で学ぶ楽しさを感じる」は87%となっている。

授業等の課題分析

- ・授業には積極的に取り組んでいるが、ペア活動やグループ活動での取り組みが不十分な生徒がいる と考えられる。
- ・授業の目標が明確でないため、「○○がわかった」「○○することができた」「○○が楽しかった」という具体的な達成感が得られない生徒がいると考えられる。



目指す授業

「英語で○○することができた」「英語で○○して楽しかった」という具体的な達成感を得られる授業



授業改善のための具体的な方策

- ・「英語で○○することができるようになる」というような具体的な目標を授業ごと、単元ごとに明示する。
- ・目標達成に向けて、スモールステップで言語活動を行う。
- ・授業の終わり、単元の終わりに振り返り活動を行い、「英語で○○することができるようになった」という確認をする。
- ・クラスルームイングリッシュの使用頻度を増やし、教師も生徒も英語をたくさん使い、「英語で○○する」場面を増やす。

令和5年度 授業改善推進プラン

担当教科 (英語) 学年 (3学年)

学力調査・アンケート等の課題分析

- ・「授業に積極的に取り組んでいる」に肯定的な回答をした生徒が95%となっている。
- ・一方で、「わかった・できたと感じる機会があり、分かりやすい」は90%で、「授業のはじめに、目標が示されている」「授業の最後に学習内容を振り返る場面がある」は79%となっている。

授業等の課題分析

- ・授業には積極的に参加しているが、「わかった」「できた」と感じられない生徒がいると考えられる。
- ・授業の目標が明確になっていないため、何ができるようになるための授業なのかわからないまま授業を受けている生徒がいると考えられる。



目指す授業

「英語で○○することができた」「英語で○○して楽しかった」という具体的な達成感を得られる授業



授業改善のための具体的な方策

- ・「英語で○○することができるようになる」というような具体的な目標を授業ごと、単元ごとに明示する。
- ・目標達成に向けて、スモールステップで言語活動を行う。
- ・授業の終わり、単元の終わりに振り返り活動を行い、「英語で○○することができるようになった」という確認をする。